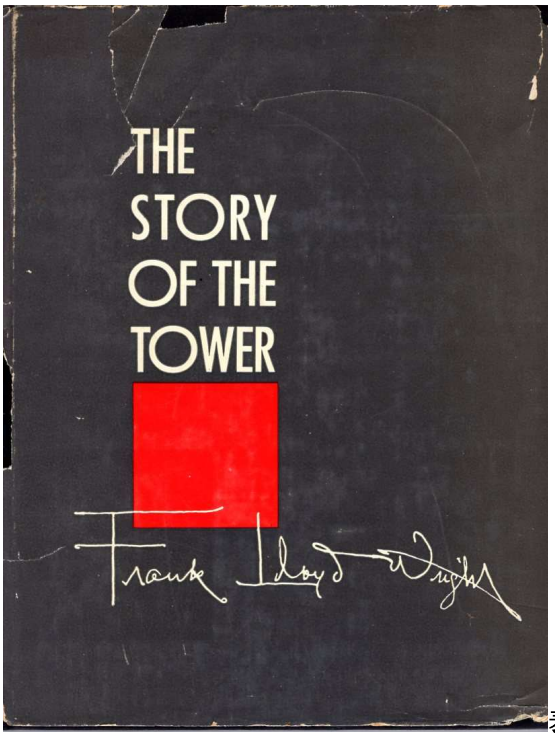
THE STORY OF THE TOWER (プライスタワー)

FRAK LLOYD WRIGHT

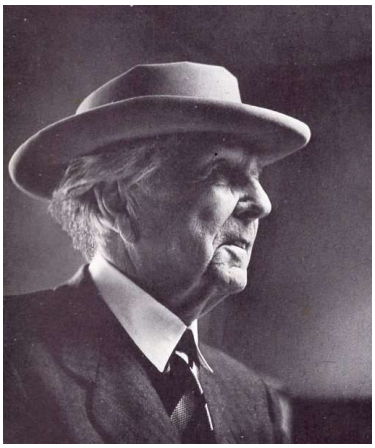
今月から上記タイトルのTHE STORY OF THE TOWER (プライスタワー) の本を長年棚に積んであり、その内容について把握していませんでした。今回翻訳ソフトを用いて読んでみました。その訳文を掲載いたします。翻訳ソフトと当方の語学力不足により不適切な文面があると思いますが、ご容赦ほどお願い致します。植木 25.6.6



表紙

すべてに向かって
私は垂直の手を高く掲げ、合図を送る
永遠に私の視界に留まるように
人々のすべての行きつけの場所と家々のために
・・・・・・・・・・・・・・・・・
最も忠実な友の街が立つ場所
倹約は然るべき場所だが、思慮分別も然るべき場
振る舞いは最高の芸術である場所
外部の権威は常に
内部の権威の優先順位の後に入ってくる場所
最も偉大な人物を生み出した街が立つ場所
そこに最も偉大な街が立つ

ウォルト・ホイットマン　1860



フランク・ロイド・ライト
タワーの物語
密林から逃れた木
ホライズン・プレス ニューヨーク　１９５６

著作権 1956 年 フランク・ロイド・ライト
アメリカ合衆国印刷
米国議会図書館カタログカード番号 56-7826
写真撮影：ジョー・D・プライス
ポール・グロッツによるフォーマット

目次

はじめに　ハロルド・C・プライス著　7
平面図
セント・マークス・プロジェクト　10
塔の物語　図面
セント・マークス・プロジェクト　10
本文　11
カラープレート
塔の原画　23
塔の計画　塔の夜景　24
平面図
1 階　28
2 階　31
上階　31
写真　27-31
起工　写真　34-37
塔の着工　写真　40-51
平面図
計画が形になる　中二階の図　58
写真　54-59

進行中の構造 写真 62-73
プラン：
1階 80
表情が浮かび上がる 描画：
南側を通るセクション 89
写真 76-95
建設の詳細 写真 98-107
カラープレート:
タワーの昼間の眺め 121
ハロルド・プライスのオフィスの内部 122
インテリア、アパートのリビングルーム 122
インテリア、アパートのダイニング エリア。 122
超高層ビルが独自の地位を確立 予定：
上層階のイメージ図 115
上層階 120
ハロルド・プライスの事務所 132
図面:
アパートの寝室 126
アパートのリビングルーム 126
典型的なオフィス 128
写真 110-133
謝辞 134

336 P7

序文

フランク・ロイド・ライトがこの本の序文を書くよう提案したとき、私は断りました。もしこの世に紹介を必要としない人がいるとすれば、それはライト氏です。

しかし、彼の出版社が、多くの人がどのようにしてタワーを建設するに至ったのかを知りたいと思うだろうという理由で提案に賛同したので、私は試してみることにしました

なぜ塔を建てたのか？その答えは1915年10月のある日、つまり40年前、私が亜鉛製錬所の化学者として初めてバートルズビルに来た日に遡ります。当時の人口は1万人にも満たない町で、フィリップス石油会社もシティーズ・サービス石油会社もありませんでした。フランクとL・E・フィリップスの兄弟が町で最大の銀行を経営していました。町で最も著名な外科医であるウェバー博士は油井を掘削し、牛を飼育していましたが、ほとんどの患者に請求書を送ることを拒否していました。タイラー家は父と息子で、豊富な石灰岩を使ってセメントを作り、良質な牛を飼育していました。

バートルズビルは古い油田に位置し、牛の飼育の中心地でしたが、主要産業は3つの大規模な亜鉛製錬所でした

第一次世界大戦は変化をもたらしました。フィリップス兄弟は石油会社を設立しました。いくつかのガス会社と小規模な石油生産会社が統合され、後に大規模なシティーズ・サービス石油会社となりました。

337 p8

1920年の世界恐慌で、2つの製錬所が永久に閉鎖され、私は職を失い、借金をして南西部で最初の電気溶接工場の一つを始めました。アダムズという少年がフィリップスの事務員として町にやって来ました。アルトゥノフという男が革命後、ロシアから水中オイルポンプのアイデアを持ってやって来ました。

これらはすべて30年以上前のことです。小さな町は着実に成長しました。壮大で素晴らしいアイデアを持つ人々はそこに留まりました。事業が繁栄しても、彼らは大都市に移り住むことはありませんでした。その代わりに、彼らは町をより住みやすい場所にするためにあらゆる努力をしました

大手石油会社は、何百人ものエンジニアや科学者を含む何千もの家族を連れてきました。しかし、町は繁栄しませんでした。代わりに、しっかりとした基盤の上に成長し、町から小さな都市へと変化し、アメリカ全土だけでなく、西半球全体と海外にまで広がる事業活動の拠点となりました。現在アダムズが指揮を執るフィリップス石油会社とシティーズ・サービス石油会社は、業界最大手の企業です。アルトゥノフのポンプは世界中で販売されています。小さな電気溶接工場は、北米と南米全域でパイプラインの溶接と建設を行う建設会社へと発展しました。

さて、なぜ私たちはこのタワーを建てることになったのでしょうか？私たちは自分たちの建物が欲しかったのです。そこで、3階建ての建物を建て、1階全体を別の会社に任せることにしました。最近オクラホマ大学を卒業した私の2人の息子、ハロルドとジョーは、フランク・ロイド・ライトに建物の設計を依頼することを提案しました。

338 P9

彼らは、美しく際立ったデザインの建物を建てるのにかかる費用は、よくある箱型のデザインの建物を建てるのにかかる費用と変わらないと主張しました。
私たちは皆、このコミュニティに住むことで得られた恩恵に感謝していました。このコミュニティは、物質的な資産を持たない若者にとって、とても助けになってくれました。
そのため、今後何年にもわたって街の誇りとなるような建物を建てたいと考えました。しかし、ライト氏がそのような小さな建物に興

味を持つとは思えませんでした。息子たちがライト氏に電話をかけ、予約を取りました。私たちはタリアセンに行きました。私は、床面積約 25,000 平方フィートの3 階建ての建物が欲しいと伝えました。彼はすぐに3 階建ては最も非効率的だと言い、各 2,500 平方フィートの10 階建てを提案しました。最終的に19 階建てで妥協し、オフィスに加えてアパートも含めました。

この紹介が、「なぜ私たちはタワーを建てたのか？」という疑問への答えになれば幸いです

ライト氏とライト・フェローシップと共に仕事をしたことは、忘れられない、そして最も満足のいく経験であり、建物に生き生きとした個性を与えるものであったことを認めなければなりません。

建築家のハスケル・カルウェル氏に心から感謝の意を表したいと思います。彼の理解と協力のおかげで、彼の職人たちは建築家の美しく感動的な建物という構想を実際の構造物として実現することができました。

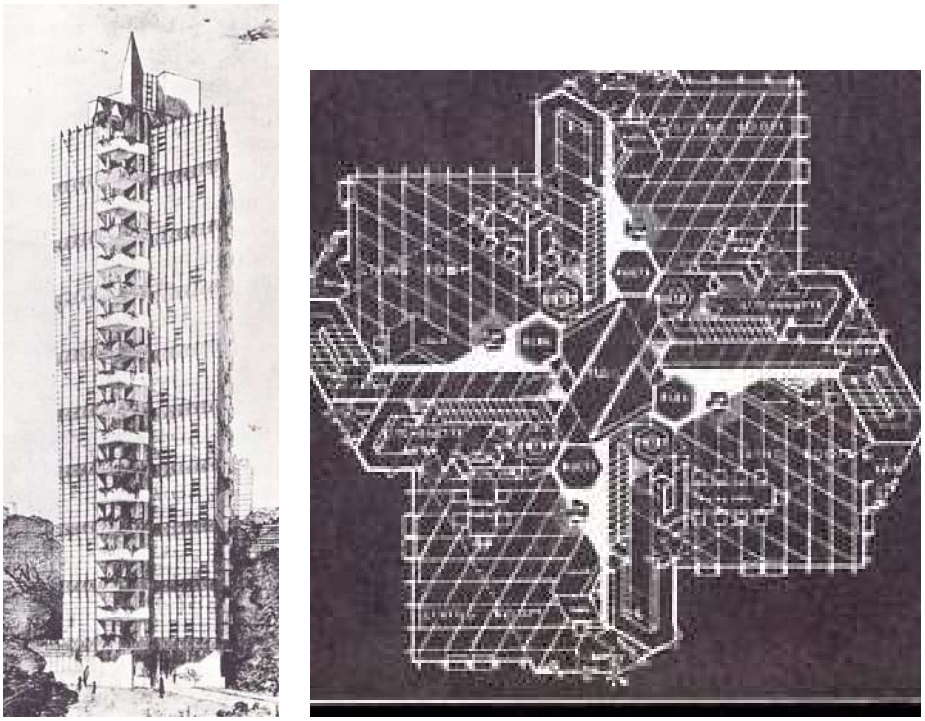
この本を献呈するのは私の仕事ではありませんが、タワーを献呈する特権を負うことができます。そして、その構想の責任者であり、建設に尽力した息子たちにこの本を捧げます。

ハロルド・C・プライス

339 P 10

THE STORY OF THE TOWER 塔の物語

パースと平面図



セント・マークス・タワー、プロジェクト、ニューヨーク市、1929 年

7 月号に続く